



「玉名の戦争遺跡 ～大浜飛行場を通して“戦争と平和”を考える～」

玉名市文化財保護審議会委員

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表 高谷和生

1 はじめに ～私と太平洋戦争開戦80年の様相～

□戦後世代としての「私の視点」

□近現代考古学との出会い。新たな視点での「熊本の歴史像構築」の必要性

2 熊本の戦争遺跡・遺産、全国・九州の動向

配布資料 啓発リーフレット『空襲下の熊本』、『軍都熊本の残像』、『進駐軍の見た熊本』

(1) 戦争遺跡とは ※参照 『しらべる戦争遺跡の事典』他 戦争遺跡ガイド本の各種

□全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「306」件 2020年11月現在

□熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」

『くまもとの戦争遺産』内の一覧表「224件」を精査し記載。逐次会HP内で、データ更新

□熊本県内の指定登録文化財は国指定165件、県指定391件、市町村指定2,396件、国登録文化財174件、市町村登録文化財51件の計3,177件 ※2021年5月1日現在

(2) 西南戦争期の指定等

西南戦争遺跡群(国指定、熊本市・玉東町)、明徳官軍墓地(熊本市)、七本官軍墓地(熊本市)、花崗山陸軍埋葬地(熊本市)、旧輜重兵六聯隊衛兵所(熊本市)、有栖川の宮御督戦の地(玉東町)、篠原国幹戦傷の地(玉東町)、城の原官軍墓地(南関町)、肥猪町官軍墓地(南関町)、陣内官軍墓地(水俣市)、下岩官軍墓地(和水町)、高瀬官軍墓地(玉名市)、田浦官軍墓地(芦北町)、峰崎官軍墓地(芦北町) 計14件

(3) アジア・太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」(陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財)、「永山の掩体壕」(陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物)の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に合志市指定文化財となる予定。「荒尾二造変電所」は、荒尾市が国財務局より買い取り、保存。管理・活用法を検討



① 菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」

(4) 福岡県教育委員会での「戦争遺跡悉皆調査」

□「福岡県内の戦争遺跡の適切な保護の推進」のために『福岡県の戦争遺跡』悉皆調査として三年間調査し、2020年3月に報告
一次「904件」、二次「1,618件」

最終報告「遺跡624件、慰霊碑1,025件、合計1,649件」

□目的は、県内の「戦争遺跡の体系的整理と評価」を行い、「戦争の記憶・記録を次代に継承」する。 ※文化庁補助金利用

□近現代遺跡・戦争遺跡の「遺跡の周知化と保存活用」を図る。

(5) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

□『くまもとの戦争遺産～戦後75年平和を祈って』第42回熊日出版文化賞受賞・2020年、第34回地方出版文化功労賞受賞・2021年

□『陸軍人吉秘匿飛行場 木製有蓋掩体壕の埋蔵文化財発掘調査』熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」と

「県内戦争遺跡・遺産一覧」

①軍都熊本市の軍事施設

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

②九州で三番目に多い陸海軍飛行場、特攻用秘匿飛行場

～正規飛行場9箇所と特攻用秘匿飛行場5箇所の配置と推移～

③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で黄色火薬(石炭原料)生産、大牟田との一体化～

④三菱重工業熊本航空機製作所と学校・地下の疎開工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産、空襲に伴う県北・県央への学校工場・半地下及び地下工場への疎開～



② 第2回熊本大空襲、河原町電停付近から白川左岸

- ⑤本土決戦に向けての防御を主眼とした「天草地区砲台・震洋等の特攻艇基地」と物資備蓄としての「人吉球磨地域の地下工場・地下壕群」
- ⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」
- ⑦敵機捕獲搭乗員、朝鮮人や中国人、連合軍俘虜労働の「加害の歴史」
 - 福岡俘虜収容所第一分所（熊本市健軍鉄砲塚）・健軍飛行場等で使役
 - 福岡俘虜収容所第六派遣所（芦北町田浦）・東海電極株式会社田浦工場で使役
 - 昭和20年8月7日「松橋空襲」に伴う「米陸軍極東航空群第345爆撃機群団」のB25「エアパッチ」機の鏡川河口への墜落。戦犯容疑の「機捕獲搭乗員」。ロバートニール機長他4名に対し「日本人への無差別爆撃の罪」としての処刑



③ 浅川に架かる旧国鉄「永代鉄橋」橋脚・橋台部への爆弾及び機銃弾痕跡
 ④ 1945（昭和20）年8月7日、鏡川河口に墜落したB25機搭乗員。
 その後8月15日に福岡市油山で処刑。通称「西部軍事件」

3 玉名（大浜）飛行場 ～伝えたい戦禍の記憶と平和への想い～ 配布資料 啓発リーフレット『大浜飛行場』

- (1) 大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊の開隊
 - 昭和20年5月14日に開隊
 - 陸軍少年飛行兵第十五期、陸軍特別幹部候補生操縦第一期の入隊
- (2) 1945年5月の沖縄特攻阻止のための空襲
 - 昭和20年5月10日、B29戦略爆撃機2機による戦術爆撃空襲
 - 5月13日、米空母「ランドルフ」他の艦載機空襲
- (3) 錬成隊「空五四二部隊」として米子への移駐
 - 昭和20年5月に移駐し、敗戦まで特攻訓練
- (4) 中練特攻隊の本土決戦に向けての配備と敗戦
 - 司偵振武隊「振武桜特別攻撃隊」の来訪、特攻中継基地の機能
 - 陸軍第九〇振武隊（修武隊）・第九十一振武隊（殉皇隊）の配備。残された日章旗。部隊員「法光寺会」と戦後の慰霊



⑤大浜飛行場正門の調査

4 残された戦争遺跡・遺構

- (1) 正門
 - 県内飛行場での「正門」遺存は、玉名・菊池・人吉飛行場の計3箇所
 - 大浜町まちづくり委員会による「欠損の右正門復原」と飛行場跡全域への「案内板」「解説看板」の設置
 - 本会によるデジタル測量と「正門復原」、基礎遺構の調査
- (2) 大型格納庫
 - 県建築士会との測量・CAD図での「建物復原」
 - 「2号大型格納庫」北西隅部の開発行為に伴う玉名市文化課の事前調査による構造の解明。三次元オルソ図作成
- (3) 浴場建物・風呂場
 - 所有者証言と本会デジタル測量での「建物復原」と構造解明



⑥三の岳を背景に飛行する四式基本練習機「ユングマン」



⑦玉名での特攻隊 第九〇振武隊

5 戦争遺跡・遺産を活用した平和学習、 地域づくり、理解していただくための啓発活動 ～次代につなぐ子ども向け、戦争を知らない大人向け、 さらには一般市民へと広げる！

(1) 大浜飛行場での平和学習「ユングマンプロジェクト」

- 市立有明中学校・大浜小学校での地域学習「玉名学」への支援、文化祭での発表内容への監修
- 当時証言とラジコン機飛行、ユングマンペーパークラフト作りでの「平和のメッセージ」発信



⑧玉名町小学校での「出前平和講座」体験学習の様子

(2) 地域諸学校での「出前平和講座」の広がり

- 市立玉名町小学校での「地域の戦争調べ学習・体験学習」

(3) 戦争と平和を考える「企画展」や熊本市との「夏の平和展」共催

- 玉名市立歴史博物館、熊本市立城南図書館、熊本市立図書館（中央区大江）での企画展。地域の公共施設との共催開催

(4) 「くまもと戦争遺産をめぐる旅」等での啓発活動

- 「旅のよろこび社」や「熊日事業部」との市民向け見学ツアー開催



⑨「第2回 くまもと戦争遺産の旅」旅のよろこび社

6 まとめ

(1) 県内の戦争遺跡資料館・平和資料館等の現状

- 「菊池飛行場ミュージアム」 2015年、市民グループ「菊池（花房）飛行場の戦争遺産を未来につたえる会」が市遊休施設内に開設・運営。地域に残された戦争遺跡・遺構等と併せての学びの場
- 「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所平和資料館」 2018年、市民グループ「荒尾二造市民の会」が会員個人宅に開設・運営。戦争遺構等の案内と証言集刊行
- 錦町立「人吉海軍航空基地資料館 ～山の中の海軍の町にしきひみつ基地ミュージアム」が、2018年開設。戦争や戦争遺跡を美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」や「歴史事実の歪曲・矮小化」への危惧

(2) 戦争遺跡・遺産の調査、保存・継承と活用に向けて

- 各市町村、各地域の実情や特性に合わせての「戦争遺跡・遺産・戦時資料の基礎資料収集と記録」を!
- 「地域づくり」として戦争遺跡・遺産の活用」の手立てを考える!
- 熊本県での、福岡県先行事例を参照として「悉皆調査」を!
県全域での基礎調査を行うべき時期に来ているのでは!

(3) 「記憶」から「記録」の時代へ

- 戦後76年の「戦争証言」を「心に刻む」、そして「掘り起こす」
- 本会では、あさぎり町「陸軍人吉秘匿飛行場」文化財調査の協力、玉名市・熊本市・菊池市・宇城市への調査支援等を実施。
さらに各地での調査支援の推進
- 混在した「戦争資料の山」を整理し、デジタル化する
- 米海兵隊撮影で吉村陽夫氏提供「ながさき原爆記録全集」、昭和館提供「熊本の街並みと風景 他」からの熊本関係映像の発見、長崎原爆資料館からの熊本関係写真資料の発見
- デジタルアーカイブ学会SLG「戦争関連資料研究会」でのデジタル化への多くの実践協議と事例の積み上げ
- くまもと戦跡ネットHP内「上村真理子 戦時資料室」での戦時資料の解説と公開。くまもと戦争遺産デジタルミュージアムへ



⑩大浜飛行場左正門で確認されたコンクリート製基礎遺構 2021年7月4日

(4) 戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料であり「国民共有の財産“文化財”」「SDGs 平和と公正を全ての人に」の推進を!

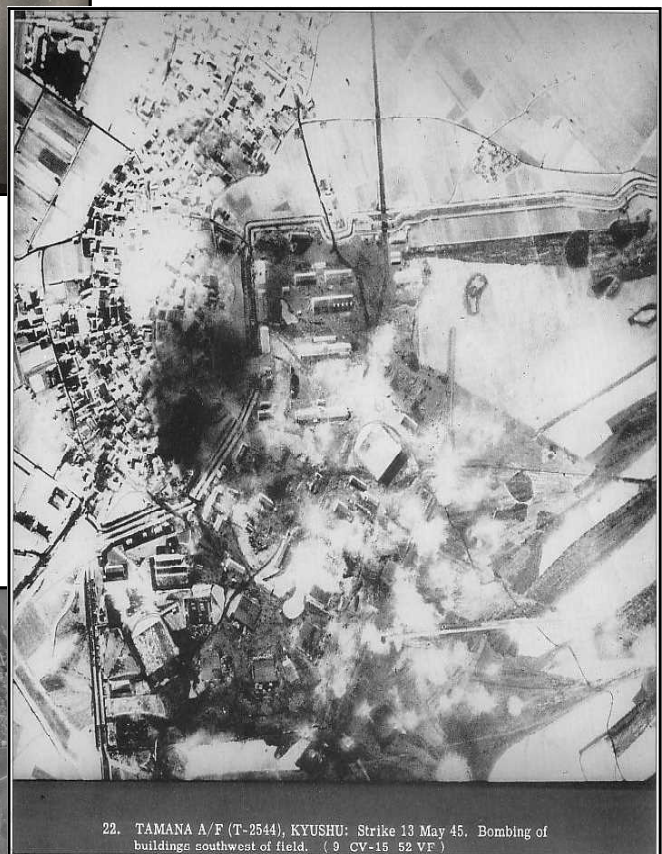
- 民間団体・市民グループと行政との連携
- 「熊本県文化財保存活用大綱」
- 「SDGs」の16番目の項目「平和と公正を全ての人に」、悲劇の記憶を「平和への意欲」に戦争という大きな暴力を無くし、世界の平和に向けて、持続可能な社会実現に向けて

[資 料 1]



⑪ 「SR45 NAGASAKI-1
写真調査報告 第45号」
1945年3月15日F13機撮影

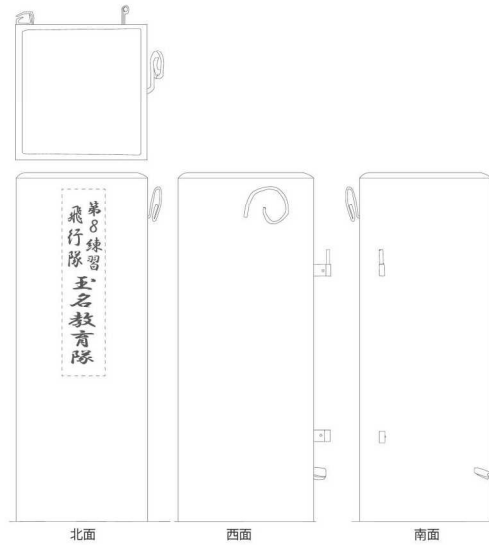
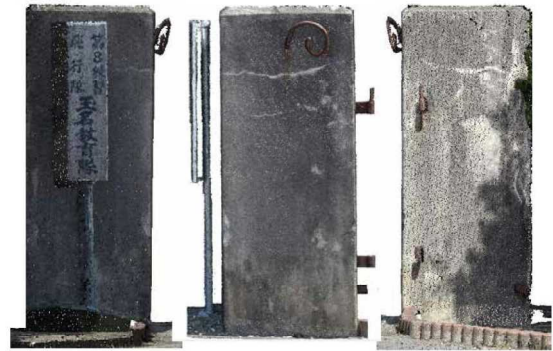
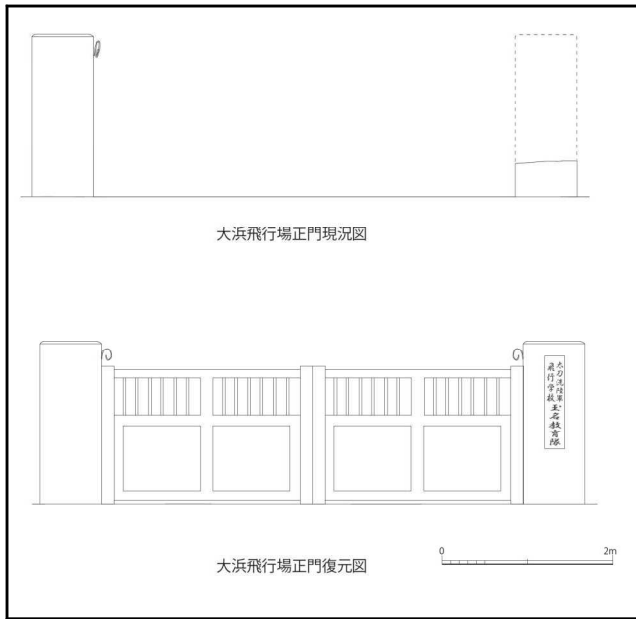
⑫ 「玉名飛行場 空襲後の様子」
USSR CV15 ランドルフ戦闘報告
1945年5月13日艦載機撮影



⑬ 「玉名飛行場」 ※全体からトリミング
沖縄移駐の陸軍極東航空軍第7航空軍第28写真偵察中隊のF5写真偵察機による
1945年7月27日撮影



[資 料 2]



大浜飛行場正門東側門柱実測図 S=1:20

⑭玉名飛行場に残された正門と路床状況（内側から）

⑮玉名飛行場正門現況図、正門復元図

⑯玉名飛行場正門東側門柱オルソ図・実測図

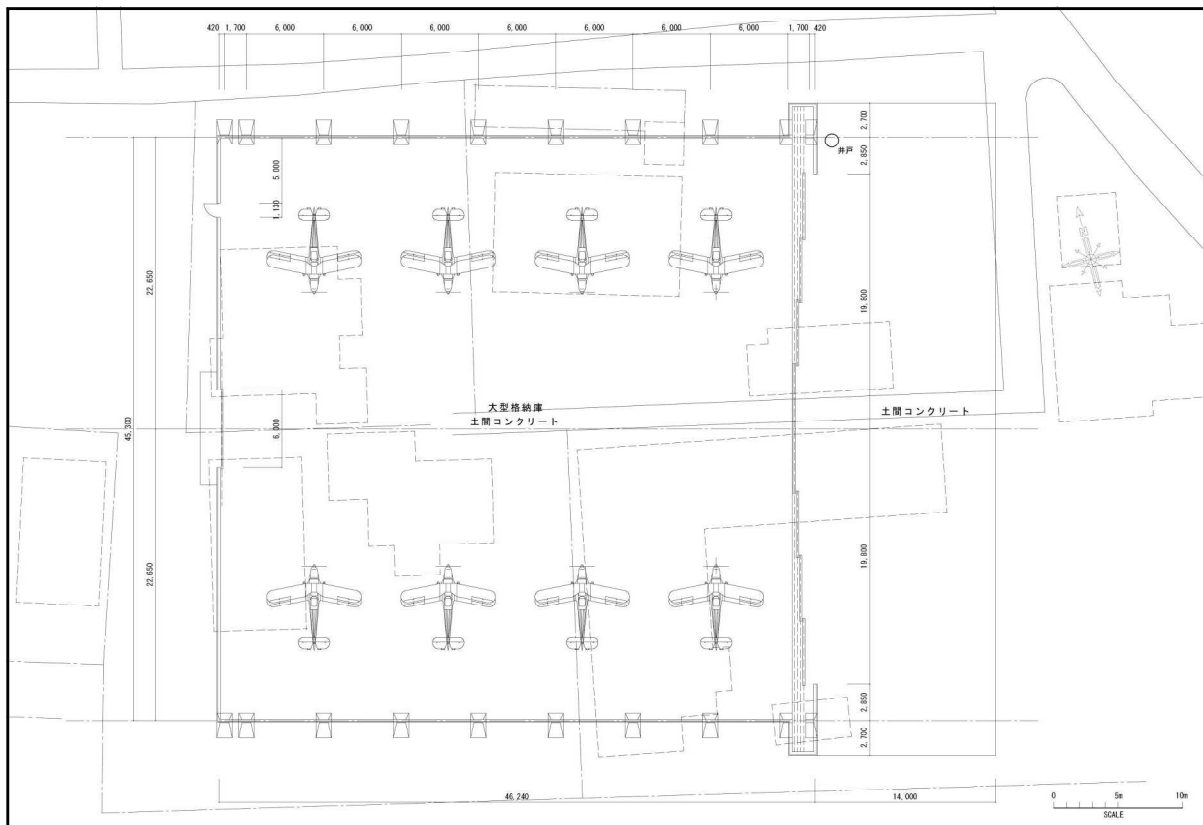
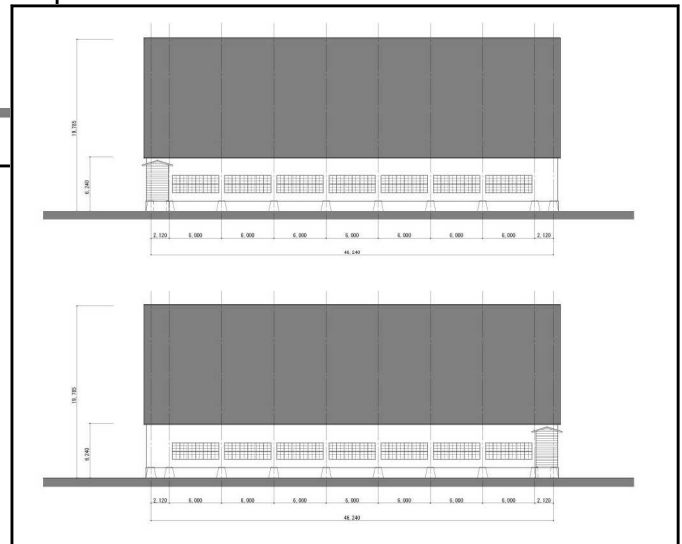
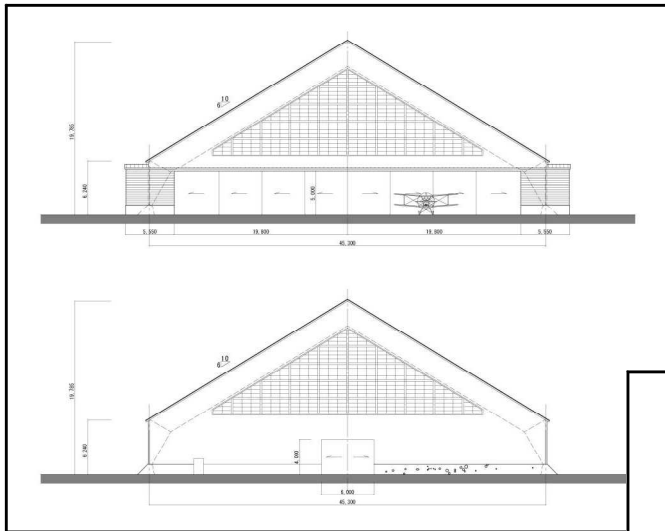


⑰玉名飛行場第2大型格納庫復元立面図

⑱・⑲同格納庫解体前のコンクリート基礎遺構のコーナー部状況



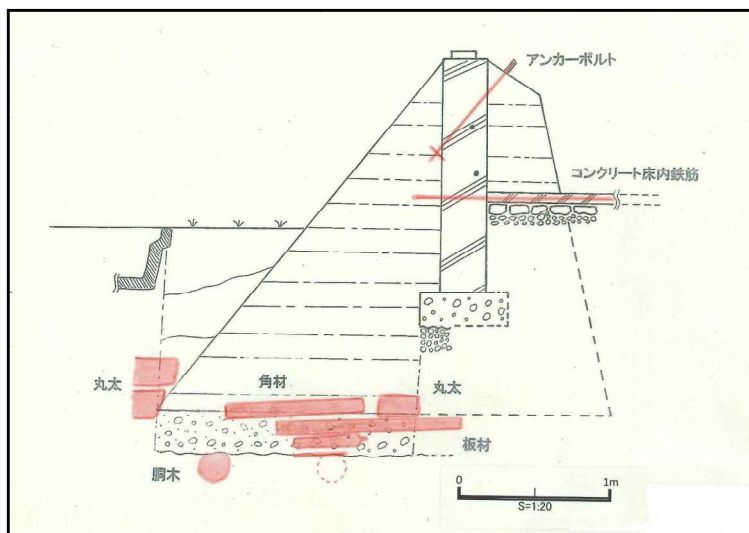
[資 料 3]



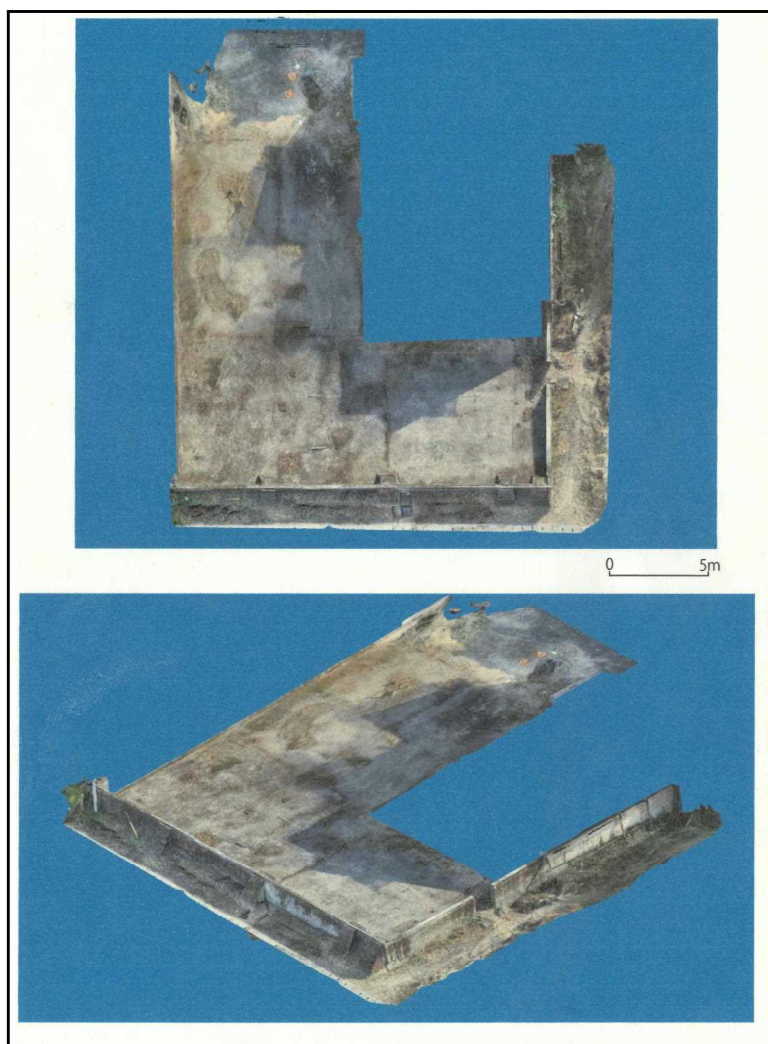
㉔玉名飛行場 第2大型格納庫立面図

㉕ 同 側面図

㉖ 同 平面図



㉓玉名飛行場第2大型格納庫基礎断面図及び三次元計測図
玉名市教育委員会提供
㉔・㉕第2大型格納庫基礎部と構築財の出土状況



㉖玉名飛行場第2大型格納庫基礎部の三次元計測図 玉名市教育委員会提供
㉗解体された同格納庫北西部コーナー部 ㉘フーチング内部の鉄筋ボルト部材 ㉙U字型鉄筋部材

福岡県戦争遺跡調査基本方針

1 必要性と目的

戦争の記憶・記録を次代に継承していくことは、第二次世界大戦後、平和国家として再出発した我が国に課せられた非常に重要な使命である。

しかしながら、戦争に関する遺構と遺構に含まれる遺物であって、歴史上又は学術上重要であるもの（以下「戦争遺跡」という。）があるにもかかわらず、その認識・評価がまだ定まっていないという面もあることから、大戦終結後70年以上が経過した今日、その多くが開発や経年劣化の進行により破壊や滅失の危険にさらされている。

このため、福岡県教育委員会において、県内の戦争遺跡について悉皆調査を行い、戦争遺跡の適切な保護の推進に資するものとする。

2 対象・範囲

調査の対象は、明治元年（1868）から、第二次世界大戦終結時の昭和20年（1945）までの間に、土地（海域を含む。）に形成された構築物等のうち、次に掲げるものとする。

- ①政治・行政関係：陸軍省、海軍省などの地方官衙、師団司令部、連隊本部その他の部隊関連施設、陸軍病院、陸軍学校、研究所など
- ②軍事・防衛関係：要塞（堡壘・砲台）、高射砲陣地、飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、洞窟陣地、特攻基地、退避壕、試射場など
- ③生産関係：陸軍造兵廠、航空機製作工場その他の軍需工場など
- ④戦闘地・戦場関係：空襲被災地、被災痕跡（弾痕・爆弾穴）など
- ⑤居住関係：防空壕、俘虜収容所など
- ⑥埋葬関係：陸軍墓地、海軍墓地、捕虜墓地など
- ⑦交通関係：軍用鉄道軌道、軍用道路など
- ⑧その他：航空機の墜落跡、記念碑、慰霊碑、忠霊塔、忠魂碑、戦没者記念碑、奉安殿、軍馬塚、境界標など

※上記に関連して、通常の発掘調査による遺構・遺物の事例も取り上げる。

3 組織・体制

- ・調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務とする。
- ・調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」を設置する。



⑩「福岡県戦争遺跡調査基本方針」の抜粋

⑪行橋市・築城海軍航空隊「稲童1号掩体」の調査・指定と整備

⑫北九州市・「矢筈岳堡壘」の公園整備状況